

Media Production Suite

Auto Framing プラグイン

Web API 仕様書

Version 1.11

June, 2025

Panasonic Entertainment & Communication Co., Ltd.

目次

1	はじめに	3
1.1	本書の目的	3
1.2	Web API 使用時の注意事項	3
2	インタフェース	4
2.1	仕様	4
2.2	フォーマット	4
2.3	対応コマンド一覧	5
3	コマンド詳細	6
3.1	FramingEnable	6
3.2	FramingStartStop	7
3.3	FramingState	8
3.4	TrackingControl	13
3.5	AutoFaceSearch	14
3.6	Preset	15
3.7	TargetFrame	16
3.8	TargetPosition	17
3.9	TargetFace	18
3.10	AutoZoom	20
3.11	AutoStartArea	21
3.12	MaskArea	23
3.13	FrameMapping	24
3.14	CurrentFrame	25
3.15	GetImage	27

1 はじめに

1.1 本書の目的

本書は、Media Production Suite ソフトウェアの Auto Framing プラグインを制御する Web API の通信インターフェイス仕様を規定したものです。

1.2 Web API 使用時の注意事項

本書に記載の Web API を使用するときは、Media Production Suite ソフトウェアのカメラ登録を複数のグループに分けて行わず、単一のグループで行うようにしてください。カメラが複数のグループに分けて登録されている場合、Web API によるカメラ指定が正しく動作しない場合があります。

Web API の情報取得コマンドによる情報は、一定の遅延があります。

2 インタフェース

2.1 仕様

本書にて Web API として規定する通信 IF は HTTP1.1 の通信仕様に準拠し、本ソフトウェアに対する制御を Web サーバ上の URL に対する HTTP リクエストとして実現しています。HTTP リクエストは、全て GET メソッドとなります。

2.2 フォーマット

Web API として提供する制御コマンドのフォーマット(URL)は以下となります。。

[送信]

http://[IP Address]:[Port No]/cgi-bin/auto_framing?cmd=[コマンド]&[パラメータ]=[値]&...

表 2.2-1 送信フォーマット詳細

No	名称	説明
1	IP Address	Web Application の IP アドレス
2	Port No	Web Application の待受用ポート番号。 現在は 1338 固定。
3	コマンド	制御コマンド文字列。 2.3 対応コマンド一覧において使用可能なコマンド一覧を規定する。
4	パラメータ	制御コマンドパラメータ。"&"を使用し、複数指定可能とする。 各コマンドにおいて規定されるため、3 コマンド詳細の各節を参照ください。
5	値	制御コマンドパラメータに設定する値。 各コマンドにおいて規定されるため、3 コマンド詳細の各節を参照ください。

[受信]

コマンド発行元に返されるレスポンスデータのフォーマットは JSON 形式(content_type "application/json")もしくは image 形式(content_type "image/jpeg")です。

2.3 対応コマンド一覧

Media Production Suite ソフトウェアの Auto Framing プラグインが対応するコマンドの一覧は以下となります。

各コマンドの詳細は 3 コマンド詳細を参照ください。

表 2.3-1 対応コマンド一覧

No	名称	説明
1	FramingEnable	オートフレーミング GUI の Enable ボタンに相当するコマンド
2	FramingStartStop	オートフレーミング GUI の Start/Stop ボタンに相当するコマンド
3	FramingState	カメラのオートフレーミングの状態を取得するコマンド
4	TrackingControl	オートフレーミング GUI の TrackingControl タブにあるスライダー操作に相当するコマンド
5	AutoFaceSearch	オートフレーミング GUI の Auto Face Search ボタンに相当するコマンド
6	Preset	オートフレーミング GUI の Advanced Preset の Recall, Set, Delete ボタンに相当するコマンド
7	TargetFrame	オートフレーミング GUI の Target Frame の Recall, Set, Delete ボタンに相当するコマンド
8	TargetPosition	オートフレーミング GUI の映像クリックによるターゲット指定および Target の+, -ボタンに相当するコマンド
9	TargetFace	オートフレーミング GUI の Face Recognition – Select, Clear ボタンに相当するコマンド
10	AutoZoom	オートフレーミング GUI の Zoom – Auto ボタンに相当するコマンド
11	AutoStartArea	オートフレーミング GUI の Setting – Auto Start Area ボタンに相当するコマンド。領域の指定も可能です。
12	MaskArea	オートフレーミング GUI の Setting – Mask Area ボタンに相当するコマンド。領域の指定も可能です。
13	FrameMapping	オートフレーミング GUI の Mapping ボタンに相当するコマンド
14	CurrentFrame	オートフレーミング GUI の Frame Adjust タブで操作する内容に相当するコマンド
15	GetImage	オートフレーミング GUI の画像を取得するコマンド Advanced Preset のサムネイル、 Target Frame のサムネイル、 TrackingControl タブに表示されている Current Framing のサムネイル

3 コマンド詳細

3.1 FramingEnable

対象カメラの Auto Framing の機能 Enable ON/OFF 制御に使用します。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.1-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。 Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
enable	必須	文字列	on : Auto Framing 機能ON off : Auto Framing 機能OFF

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

Auto Framing 機能 ON

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=FramingEnable&id=1&enable=on`

Auto Framing 機能 OFF

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=FramingEnable&id=1&enable=off`

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.1-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

コマンドレスポンス例

```
{
  "Command": "FramingEnable",
  "Parameter": "id=1&enable=on",
  "Response": "ack"
}
```

3.2 FramingStartStop

対象カメラの追尾フレーミング処理の開始／停止制御に使用します。

リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.2-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する（1～）。 Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
process	必須	文字列	start /stopのいずれかを指定する。 start : フレーミング開始 stop : フレーミング停止

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

追尾開始

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=FramingStartStop&id=1&process=start

追尾停止

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=FramingStartStop&id=1&process=stop

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.2-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.3 FramingState

カメラのオートフレーミング状態を取得する場合に使用します。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.3-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。 id = 0の場合、id 1~100のうち存在するカメラすべてのFramingStateを送信します。 Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

カメラ状態取得

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=FramingState&id=1

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.3-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す
FramingState		配列	FramingStateオブジェクトの配列。 nackの場合は存在しません 情報の更新頻度は5Hz程度です。

表 3.3-3 FramingState オブジェクトの構造

キー	形式	説明
AutoFaceSearch	bool	true : 機能オン false : 機能オフ
AutoZoom	bool	true : 機能オン false : 機能オフ

FramingEnable	整数値	AutoFraming機能のEnable状態を示す値 0: 機能オフ 1: Built-Inモード 2: PC_GPUモード 6: PC_GPU(Referenceカメラ)モード
FramingStartStop	整数値	GUIのSTART/STOPボタンの状態を示す値 0: START/STOPボタンがSTOP状態 1: START/STOPボタンがSTART状態
FramingStatus	整数値	フレーミング状態を示す値 0: Stopped 1: Tracking 2: Lost 3: Searching
TargetFace		オブジェクト
TrackingControl		オブジェクト
auto_start_area		オブジェクト
camera_info		オブジェクト
mask_area		オブジェクト
person	person_data オブジェクト の配列	
ptz_status		オブジェクト
selected_id	整数値	選択中の人物のID。顔オートフォーカス対応機種の場合、フォーカス対象のIDを示す
target_id	整数値の配列	ターゲットとして指定されているIDの配列
target_frame		オブジェクト

表 3.3-4 TargetFace オブジェクトの構造

キー	形式	説明
list_id	整数値の配列	GUIのFace Recognitionで選択されている人物の番号。Select Face画面に表示される番号と同じです。
name	文字列の配列	list_idに対応する名前の配列

表 3.3-5 TrackingControl オブジェクトの構造

キー	形式	説明
AutoZoomSpeed	整数値	GUIのTracking Controlに表示されるAutoZoom Speed
PanTiltSpeed	整数値	GUIのTracking Controlに表示されるPan/Tilt Speed
Sensitivity	整数値	GUIのTracking Controlに表示されるSensitivity

表 3.3-6 auto_start_area オブジェクトの構造

キー	形式	説明
----	----	----

AutoStartAreaEnable	整数値	0 : Auto Start Area無効 1 : Auto Start Area有効
polygon	[x, y]値の配列	3点以上の[x, y]座標で構成。左上原点の1920x1080座標系

表 3.3-7 camera_info オブジェクトの構造

キー	形式	説明
IP_address	文字列	カメラのIPアドレス
PanTiltLimitUDLR	整数値の配列	上、下、左、右の順で下記の状態を示す 0 : Pan Tilt Limit無効 1 : Pan Tilt Limit有効
guid	文字列	カメラのGUID (将来使用)
id	数値	カメラのID番号
name	文字列	GUI上で設定されているカメラの名称
powermode	数値	0 : Standby 1 : PowerOn 3 : PowerOff

表 3.3-8 mask_area オブジェクトの構造

キー	形式	説明
polygon_array	polygonの配列	auto_start_areaオブジェクトで定義されるpolygonの配列

表 3.3-9 person_data オブジェクトの構造

キー	形式	説明
body	オブジェクト	人体を示す矩形座標。左上原点の1920x1080座標系 { "height" 矩形の高さ "width": ,矩形の幅 "x": ,左上のX座標 "y": 左上のY座標 },
head	オブジェクト	頭を示す矩形座標。左上原点の1920x1080座標系 { "height" 矩形の高さ "width": ,矩形の幅 "x": ,左上のX座標 "y": 左上のY座標 },
id	整数値	人物のID
name	文字列	顔認証されている場合の名前

表 3.3-10 ptz_status オブジェクトの構造

キー	形式	説明
----	----	----

ptz_move	bool	true : カメラのPan/Tilt/Zoomのいずれかが動作中 false : 上記が停止している
----------	------	--

表 3.3-11 target_frame オブジェクトの構造

キー	形式	説明
pos_x	実数値	TargetFrame設定値のX座標 左上原点の1920x1080座標系
pos_y	実数値	TargetFrame設定値のY座標 左上原点の1920x1080座標系
zoom	整数値	オートズーム目標値 (10 ~ 70)

FramingState オブジェクトの例

```

1. "FramingState": [
2.   {
3.     "AutoFaceSearch": false,
4.     "AutoZoom": true,
5.     "FramingEnable": 2,
6.     "FramingStartStop": 0,
7.     "FramingStatus": 4,
8.     "TargetFace": {
9.       "list_id": [1, 5],
10.      "name": [
11.        "BOB",
12.        "EMI"
13.      ]
14.    },
15.    "TrackingControl": {
16.      "AutoZoomSpeed": 0,
17.      "PanTiltSpeed": 0,
18.      "Sensitivity": 0
19.    },
20.    "auto_start_area": {
21.      "AutoStartAreaEnable": 0,
22.      "polygon": [
23.        [0, 0],
24.        [0, 0],
25.        [0, 0],
26.        [0, 0]
27.      ]
28.    },
29.    "camera": {
30.      "IP_address": "192.168.0.80",
31.      "PanTiltLimitUDLR": [0, 0, 0, 0],
32.      "guid": "a554ceb5-508c-4623-b46b-da3dbd8499bc",
33.      "id": 1,
34.      "name": "CAM1",
35.      "powermode": 1
36.    },
37.    "mask_area": {
38.      "polygon": [
39.        [

```

```
40.     [0, 0],
41.     [0, 0],
42.     [0, 0],
43.     [0, 0]
44.   ],
45.   [
46.     [0, 0],
47.     [0, 0],
48.     [0, 0],
49.     [0, 0]
50.   ],
51.   [
52.     [0, 0],
53.     [0, 0],
54.     [0, 0],
55.     [0, 0]
56.   ]
57. ]
58. },
59. "person": [
60.   {
61.     "body": {
62.       "height": 1050,
63.       "width": 681,
64.       "x": 237,
65.       "y": 0
66.     },
67.     "head": {
68.       "height": 235,
69.       "width": 235,
70.       "x": 462,
71.       "y": 117
72.     },
73.     "id": 6241,
74.     "name": "BOB"
75.   }
76. ],
77. "ptz_status": {
78.   "ptz_move": false
79. },
80. "selected_id": 6239,
81. "target_id": [6239],
82. "target_frame": {
83.   "pos_x": 0,
84.   "pos_y": 0,
85.   "zoom": 10
86. }
87. }
88. ],
```

3.4 TrackingControl

対象カメラのフレーミングスピードと **Sensitivity** の設定に使用します。

AutoFraming 機能が **Enable** の場合に使用できます。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.4-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
pt_speed	任意	整数値	GUIのPan/tilt Speedスライダーに相当します。 使用可能な値：-2, -1, 0, 1, 2
z_speed	任意	整数値	GUIのAutoZoom Speedスライダーに相当します。 使用可能な値：-2, -1, 0, 1, 2
sensitivity	任意	整数値	GUIのSensitivityスライダーに相当します。 使用可能な値：-2, -1, 0, 1, 2

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

pt_speed を 2、sensitivity を 1 に設定

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=TrackingControl&id=1&pt_speed=2&sensitivity=1

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.4-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.5 AutoFaceSearch

Auto Face Search 機能の有効/無効設定変更に使用します。

AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。

Advanced Auto Framing ライセンスが必要な機能のため、GUI の Detail Setting – Framing Processor が PC_GPU の場合に使用できます。

リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.5-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。Media Production Suite ソフトウェアの Device View 画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
mode	必須	文字列	Auto Face Search 機能の有効/無効を指定。0(無効)、1(有効)のいずれかを指定する。

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

Auto Face Search ON

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=AutoFaceSearch&id=1&mode=1

Auto Face Search OFF

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=AutoFaceSearch&id=1&mode=0

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.5-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Response が nack の場合、詳細を返す

3.6 Preset

Advanced Preset の登録／削除／呼び出しを行う場合に使用します。

カメラの Preset と Target Frame を同時に処理する Advanced Preset として動作するため、Web ブラウザで Auto Framing プラグインの画面が開かれている必要があります。NOTE：この制限は将来のバージョンで解消する予定です。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.6-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1～)。 Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
mode	必須	文字列	set / clear / recall のいずれかを指定する。 set : 登録 clear : 削除 recall : 呼び出し
preset_num	必須	整数値	modeで指定した処理の対象となるPreset番号を1～20の整数値で指定

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

現在位置を Preset1 に登録

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=Preset&id=1&mode=set&preset_num=1

Preset 20 を呼び出し

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=Preset&id=1&mode=recall&preset_num=20

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.6-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.7 TargetFrame

Target Frame の登録／削除／呼び出しを行う場合に使用します。

Target Frame を処理する動作のため、Web ブラウザで Auto Framing プラグインの画面が開かれている必要があります。NOTE：この制限は将来のバージョンで解消する予定です。

AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。

リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.7-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1～)。 Media Production Suite ソフトウェアの Device View 画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
mode	必須	文字列	set / clear / recall のいずれかを指定する。 set : 登録 clear : 削除 recall : 呼び出し
preset_num	必須	整数値	mode で指定した処理の対象となる TargetFrame 番号を 1～20 の整数値で指定

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

現在位置を Preset1 に登録

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=TargetFrame&id=1&mode=set&preset_num=1

Preset 20 を呼び出し

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=TargetFrame&id=1&mode=recall&preset_num=20

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.7-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Response が nack の場合、詳細を返す

3.8 TargetPosition

フレーミングターゲットの選択／追加／削除を行う場合に使用します。

AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。

リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.8-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
mode	必須	文字列	select / plus / minus のいずれかを指定する。 select : 選択 plus: 追加 minus : 削除
on_ref_cam	任意	整数値	0: フレーミングカメラ上のターゲットを指定(default) 1: リファレンスカメラ上のターゲットを指定 リファレンスカメラ連携モードではないとき、1を設定した場合の動作は不定です。
target_x	必須	整数値	左上原点の1920x1080座標における指定する点のX座標
target_y	必須	整数値	左上原点の1920x1080座標における指定する点のY座標

コマンド使用例 :

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

ターゲットを選択
http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=TargetPosition&id=1&mode=select&target_x=300&target_y=540

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.8-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.9 TargetFace

Face Recognition の設定を行う場合に使用します。

AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。

Advanced Auto Framing ライセンスが必要な機能のため、GUI の Detail Setting – Framing Processor が PC_GPU の場合に使用できます。

リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.9-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。 Media Production Suite ソフトウェアの Device View 画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
mode	必須	文字列	select / clear のいずれかを指定する。 select : 選択 clear : 顔選択のクリア処理
face_id	任意	整数値	GUIのSelect Face画面に表示される顔の番号を指定する。コンマで区切り、4個まで指定可能 例 : 2, 5
name	任意	文字列	顔の名前を指定する。”(%22)で名前を囲む。コンマで区切り、4個まで指定可能 例 : “BOB”, “Emi” URLエンコード後は %22BOB%22,%22Emi%22 名前の登録はアルファベットとスペースのみにしてください。記号が含まれる場合の動作は不定です。 同じ名前の顔が登録されている場合、face_idが小さい顔が指定されます。

コマンド使用例 :

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

ターゲットを選択(ID 指定)

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=TargetFace&id=1&mode=select&face_id=1,2`

ターゲットを選択(名前指定)

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=TargetFace&id=1&mode=select&name=%22BOB%22,%22cat%22,%22Emi%22`

ターゲットをクリア

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=TargetFace&id=1&mode=clear`

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.9-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.10 AutoZoom

Auto Zoom 機能の有効/無効設定変更に使用します。

AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。

リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.10-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
mode	必須	整数値	Auto Zoom機能の有効/無効を指定。0(無効)、1(有効)のいずれかを指定する。

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

Auto Zoom ON

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=AutoZoom&id=1&mode=1`

Auto Zoom OFF

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=AutoZoom&id=1&mode=0`

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.10-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.11 AutoStartArea

Auto Start Area 機能の設定変更に使用します。

AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。

リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.11-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
mode	必須	整数値	Auto Start Area 0: 無効 1:有効
area_x	任意	整数値	左上原点の1920x1080座標における矩形の左上のX座標
area_y	任意	整数値	左上原点の1920x1080座標における矩形の左上のY座標
area_width	任意	整数値	左上原点の1920x1080座標における矩形の横幅
area_height	任意	整数値	左上原点の1920x1080座標における矩形の縦幅

area_x, area_y, area_width, area_height を送信しない場合、area を削除します。

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

Auto Start Area 有効

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=AutoStartArea&id=1&mode=1&area_x=100&area_y=150&area_width=300&area_height=200`

Auto Start Area 無効

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=AutoStartArea&id=1&mode=0`

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.11-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド

	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.12 MaskArea

Mask Area 機能の設定変更に使います。

AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.12-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
area_id	必須	整数値	Mask Areaの番号 (1~3)
area_x	任意	整数値	左上原点の1920x1080座標における矩形の左上のX座標
area_y	任意	整数値	左上原点の1920x1080座標における矩形の左上のY座標
area_width	任意	整数値	左上原点の1920x1080座標における矩形の横幅
area_height	任意	整数値	左上原点の1920x1080座標における矩形の縦幅

area_x, area_y, area_width, area_height を送信しない場合、area を削除します。

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

area_id=1

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=MaskArea&id=1&area_id=1&area_x=100&area_y=150&area_width=300&area_height=200

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.12-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.13 FrameMapping

Mapping 機能を使用します。

AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。

リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.13-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。

コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

FrameMapping

http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=FrameMapping&id=1

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.13-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.14 CurrentFrame

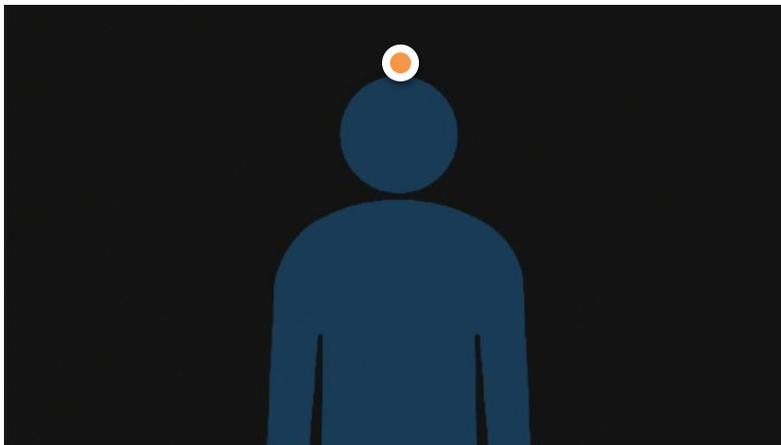
Current Framing 機能の調整に使用します。AutoFraming 機能が Enable の場合に使用できます。
リファレンスカメラに割り当てたカメラでは使用できません。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.14-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。 Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
mode	必須	整数値	調整モード absolute : 絶対値による指定 relative : 相対値による指定
target_x	任意	整数値	absolute : 左上原点の1920x1080座標における中心X座標 relative : 相対値-100 ~ 100 (step) [NOTE] API指定した値からオートフレーミングで使用可能な値に制限されることがあります。
target_y	任意	整数値	absolute : 左上原点の1920x1080座標における上端Y座標 relative : 相対値-100 ~ 100 (step) [NOTE] API指定した値からオートフレーミングで使用可能な値に制限されることがあります。
auto_zoom_ratio	任意	整数値	absolute : 画面幅に対するサイズ比率(10~70) relative : 相対値-60 ~ 60 [NOTE] API指定した値からオートフレーミングで使用可能な値に制限されることがあります。

mode=absolute で指定する座標は、青い仮想人物像の上辺中央です。(下図のオレンジ色の点)



コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

absolute で指定

```
http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=CurrentFrame&id=1&mode=absolute&target_x=100&target_y=150&auto_zoom_ratio=30
```

absolute で指定(target_x, target_y のみ)

```
http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=CurrentFrame&id=1&mode=absolute&target_x=100&target_y=150
```

relative で指定

```
http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=CurrentFrame&id=1&mode=relative&target_x=-10&target_y=15
```

コマンドレスポンスは JSON 形式です。

表 3.14-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す

3.15 GetImage

画像の取得に使用します。

送信パラメーター一覧は以下になります。

表 3.15-1 送信パラメーター一覧

名称	使用	形式	説明
category	必須	文字列	CurrentFrame : Current Framingの画像を取得 TargetFrame : Target Frameのサムネイルを取得 AdvancedPreset : Advanced Presetのサムネイルを取得

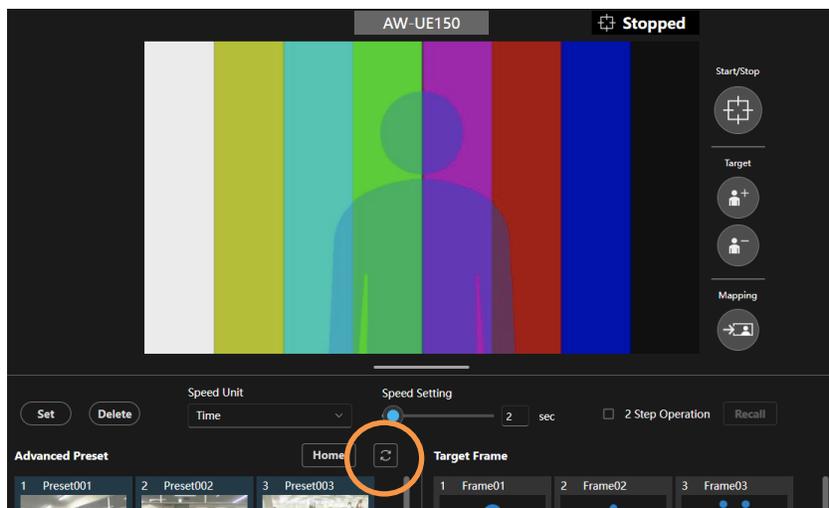
category = CurrentFrame のパラメータ

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1～)。 Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。

category = TargetFrame および AdvancedPreset のパラメータ

名称	使用	形式	説明
id	必須	整数値	カメラのID番号を指定する (1~)。Media Production SuiteソフトウェアのDevice View画面に表示されているカメラの番号を指定してください。
number	必須	整数値	Target FrameまたはAdvanced Presetの番号 (1~) を指定する。

NOTE: セットアップ後にデフォルトで設定されている TargetFrame について、レスポンスが"specified target frame does not exist"となる場合、GUI のサムネイルリロードボタンを押してください。



コマンド使用例：

IP アドレス 192.168.0.200 の PC で実行されている Auto Framing プラグインの、ID=1 のカメラにコマンドを送信する場合の例です。

Current Framing の画像を取得

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=GetImage&id=1&category=CurrentFrame`

Target Frame 画像の取得

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=GetImage&id=1&category=TargetFrame&number=1`

Advanced Preset 画像の取得

`http://192.168.0.200:1338/cgi-bin/auto_framing?cmd=GetImage&id=1&category=AdvancedPreset&number=2`

コマンドレスポンスは成功した場合、`content_type = "image/jpeg"`です。失敗した場合、JSON 形式です。

表 3.15-2 JSON 定義

Object	JSON key	形式	説明
	Command	文字列	送信されたコマンド
	Parameter	文字列	送信されたパラメータ
	Response	文字列	ack / nack
	NACKDetail	文字列	Responseがnackの場合、詳細を返す